

CHECK 3

湯川リウマチ内科クリニック 湯川宗之助院長に聞く

「関節リウマチは全国で約80万人、全人口の0.5~1%が患っている病気で、特に30~50代に多く見られますが、20代で発症するものもまれではありません。また、女性に圧倒的に多いのも特徴ですが、その理由ははっきりしていません」

「大切なのは、完全に病気に移行してしまいう前、つまり『未病』の段階で早期発見し、早期治療を行うことです」

「『寛解』は、リウマチを早期発見するためにはむしろ良いのか。現在のリウマチ治療や課題などについて伺った。」

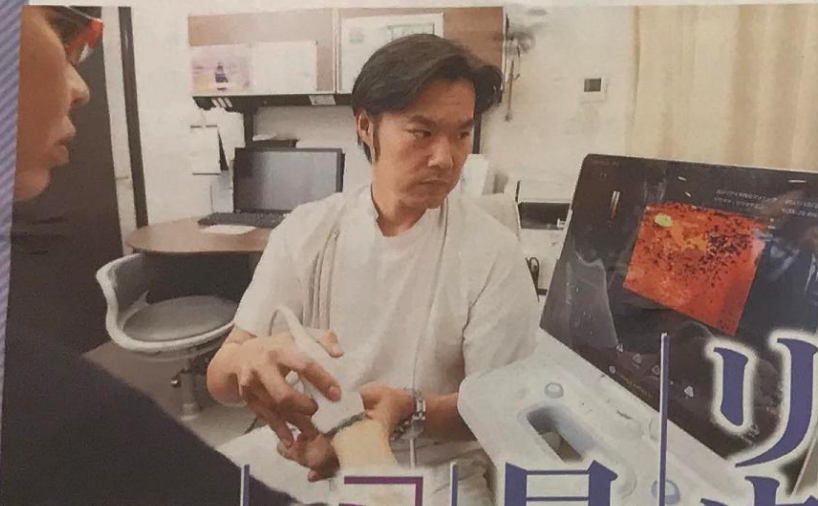
30~50代女性に多い

「リウマチは、かつては『一度患ってしまったら、治療法がない難病』と思われてきました。しかし、リウマチの中でも『関節リウマチ』は今、不治の病ではなく、『寛解』(かんげい)病気の症状がほぼ消えた状態」が期待できる病気に変わっているのです」

「関節や関節周りの骨、腱、筋肉などに痛みが起る症状の総称を指す『リウマチ』。誰もが聞いたことのある病名にもかかわらず、その症状や治療法などについて、正しく知っている人は少ない。『早期治療が肝心』という最新事情を専門医に聞いた。」



気分が悪い、微熱が続く、だるい、貧血気味…



「関節リウマチの原因には、遺伝的因子と環境因子の両面が考えられるという。例えば、リウマチを患っている人の子供が発症することもありますが、血縁にリウマチの人が一切ない場合にも、発症することもある。関節リウマチは、基本的にははっきりした原因が不明の『自己免疫疾患』なのです」

「自己免疫疾患」とは、異物を排除する役割を持つ免疫系が、何らかのきっかけにより、自分自身の正常な細胞や組織を誤って「敵」とみなし、攻撃してしまう症状のこと。では、関節リウマチの主な症状はどんなものか。

「症状の特徴としては、手の指のこわばり、左右対称性の関節痛、関節の腫れなどがあります。また、進行すると骨や軟骨が壊れて変形してしまったり、骨が動かせなくなったり、骨や軟骨の変形まで進行してしまったり、リハビリや手術で進行を遅らせる方法しかないという。」

「関節リウマチの初期症状には、気分が悪い、微熱が続く、だるい、貧血気味、食欲がないなどといったものが見られます。しかし、これらの症状だけでは風邪や疲れだと思いき、見過ごしてしまうケースが多いのです」

リウマチ 早期治療で「寛解」

専門医を早期に受診

残念ながら、「症状」だけで見つけることは難しい。そのため、関節や身体所見、血液検査、MRIなどを総合的・鑑別的に診断して検査が行われるという。

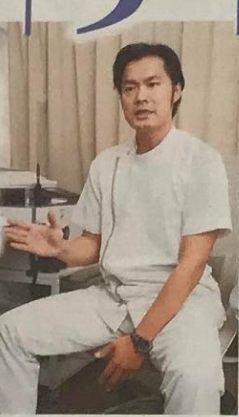
「以前は、リウマチ治療というと、関節の痛みや炎症を薬で抑えるか、手術で取り除くしか方法がありませんでした。一度患うと手立が何もなく、早期発見の意味がなかったのです。しかし、今では病気の進行を抑える『抗リウマチ薬』や、『生物学的製剤』など、新しい治療薬が登場したことで、病気の症状の寛解が目指せるようになってきました」

「ところで、かつては『不治の病』とも思われてきたリウマチですが、なぜ『未病』として、早期発見・早期治療の重要性が唱えられるようになったのか。」

「『寛解』は、リウマチを早期発見するためにはむしろ良いのか。現在のリウマチ治療や課題などについて伺った。」

「大切なのは、完全に病気に移行してしまいう前、つまり『未病』の段階で早期発見し、早期治療を行うことです」

「『寛解』は、リウマチを早期発見するためにはむしろ良いのか。現在のリウマチ治療や課題などについて伺った。」



湯川宗之助 (ゆかわ・そうのすけ) 2000年東京医科大学医学部医学科卒業。東京医科大学病院第三内科(リウマチ・膠原病科)、産業医科大学医学部第一内科講堂などを経て、2015年2月開業。日本リウマチ学会リウマチ専門医・評議員。日本内科学会総合内科専門医。

目覚ましい治療の進化

日本では、1999年に代表的な抗リウマチ薬の「メトトレキサート」が、2003年から「生物学的製剤」が承認されたことで、関節リウマチの根本治療が可能になってきている。

また、大きな転換点は、2010年に、ヨーロッパリウマチ学会とアメリカリウマチ学会が、関節リウマチの新しい診断基準を発表したこと。これは、治療が可能になってきたことから、早期発見を目的として作られた基準である。

これまで、ある程度関節破壊が進行しないと、関節リウマチの診断がつかなかったが、骨にびらんなどの異常が生じる前でも、腫れや痛み、血液検査などから診断が可能となった。他の病気と関節リウマチを見分けるための「分類基準」とも呼ばれている。

こうした変化により、治療目標もまた、①腫れも痛みもない「寛解」の状態にする、②関節破壊の進行を抑え込む(骨びらんの修復)、③身体機能を保持して普通に生活してQOL(生活の質)を高める、④薬を使わなくてよい状態をめざす、という手順に変わってきている。

近くのリウマチ専門医は、「日本リウマチ学会」(<http://www.ryumachi-jp.com/>)の「指導医・専門医検索」で検索すると良い。